

科目名		建築実習 I			
担当教員		佐藤 優希		実務授業の有無	○
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、 授業の進め方	建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、建築大工技能士2級の課題を中心としたを実習。 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 正確な手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)	大工技能検定2級の資格取得を目指す。資格取得ばかりでなく、大工技術に必要なノミの使い方やカンナの使い方、またそれらの道具の手入れなども、技能試験練習を通して習得していく。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布プリント等				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	2級建築施工管理試験対策授業			試験の対策授業を行う	
2	木材カンナ削りの練習			方法：注意事項、教材と工具、材料を使い課題の説明 達成目標：健康、安全管理、①の作業ができています。 準備学習：作業手順を予習	
3	インパクトドリルでのほぞ穴の掘り方			方法：注意事項、教材と工具、材料を使い課題の説明 達成目標：健康、安全管理、①の作業ができています。 準備学習：作業手順を予習	
4	2級課題の寸法の習得			繰り返し練習し、課題の寸法を記憶していく。	
5	2級課題の組み立て方の習得			方法：注意事項、教材と工具、材料を使い課題の説明 達成目標：健康、安全管理、①の作業ができています。 準備学習：作業手順を予習	
6	繰り返し課題の制作			2級技能士取得のため、合計8個課題を作り上げる。	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			繰り返し課題を作成しながら加工手順を覚え、2級技能士資格取得に向け確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。知識と同時に技術を伴う内容のため、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。	
%	%	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	建築大工として6年実務に携わる				